

○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生はやや多く、うどんこ病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類、アザミウマ類及びハスモンヨトウ幼虫の発生はやや少ないです。

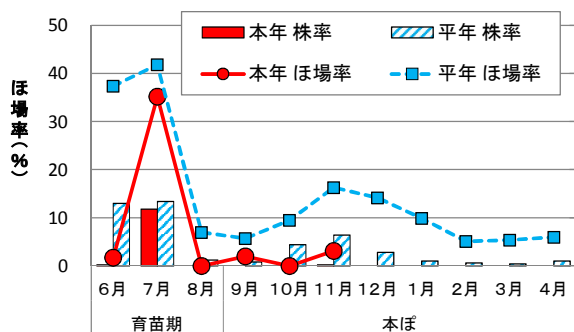


図1 うどんこ病の発生ほ場率・株率

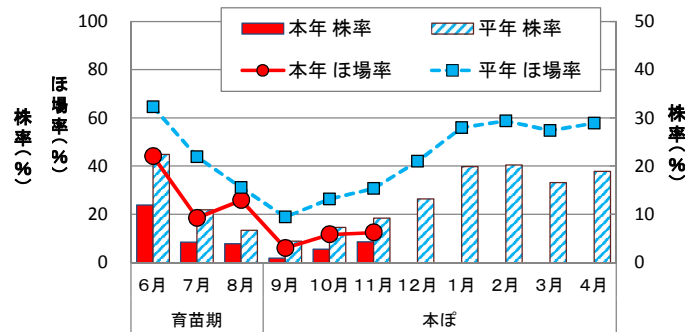


図2 ハダニ類の発生ほ場率・株率

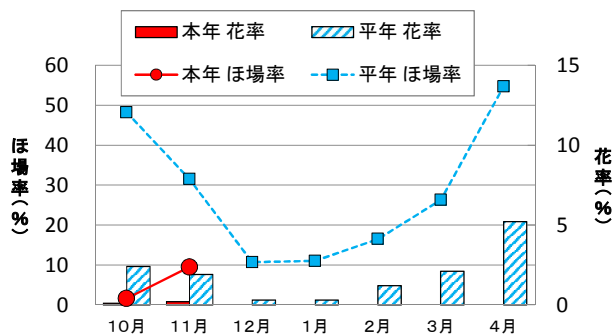


図3 アザミウマ類(花)の発生ほ場率・花率

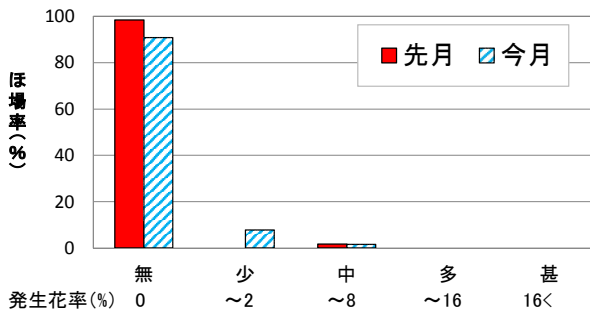


図4 アザミウマ類(花)の発生程度別ほ場率

○今月の技術情報（技術指導班）○（11月）

・9月以降、気温が高く推移していたことから、定植後の生育は良好ですが、10月中下旬の日照不足により、葉面積が大きく軟弱気味で経過しています。また、台風19号により冠水等の被害があった地域では、生育遅延や結実不稔等が見られ、生育回復対策等の管理が行われているところです。

・とちおとめの頂花房の着果数は15~25果と平年並で、夜冷作型の一次腋花房の花房間葉数は平年よりもやや多い傾向が見られることから、収穫の谷が懸念されます。

・病害虫の発生は、炭疽病が多いほかは全体的に少ない状況となっていますが、保温開始以降、一部でハダニ類、アザミウマ類、ハスモンヨトウの発生が見られています。ほ場をよく確認し、病害虫の早期発見・早期防除に努めましょう。

・11月に入り、気温の低下に伴い一斉に保温開始が始まりました。特に、花房間葉数が多く葉面積の大きいところは、展開葉のチップバーンや一次腋花房の不受精果・ガク焼けによる品質低下が懸念されます。適切な温湿度管理及び施肥管理を行い、品質の高いいちご生産に心がけましょう。



写真1 花に寄生するヒラズハナアザミウマ



写真2 ハスモンヨトウ中齢幼虫